

俳人協会
岐阜県支部会報
第36号

発行者 大野 鶴士
発行所 俳人協会
岐阜県支部事務局
〒500-8211 岐阜市日野東8-8-3
横田 義男 方
TEL・FAX 058-247-6552
振替口座 00870-9-77529

コロナ克服の期待

大野 鶴士

令和三年という新しい年を迎えました。新型コロナウイルスが猛威を振るった昨年でしたが、現在でも、終息はおろか収束の兆しもまだ見えません。

そもそも疫病、感染症が文学、芸術、学問に落とす影は、古今東西を問わず思った以上に大きいようです。シェークスピアの『ロミオとジュリエット』や、ニュートンの万有引力の法則発見にも、影響を与えています。俳句も例外ではありません。

しかし、文芸作品は災禍を描くのみで、ウイルスに無力なものでしょうか。芭蕉が大垣で詠んだ「折々に伊吹をみては冬ごもり」の句は、「みる」という攻撃性と「冬ごもり」という防御性を兼ね備えているとの指摘もあります。優れた作品は、邪悪な対象に対するワクチンとほまた異なった、攻撃性と防御性を奥底に秘めているのでしよう。

疫病、感染症の克服により、天平文化やルネサンスの花が開いたことを思いつつ、本年の芭蕉の道俳句大会が無事行えることを願っています。

去年今年を詠む



元日や妻の日記の万年青の実 所 山花
ロウバイの花びらにいま初日射す
落鮎もコロナの川にやつれけり 佐藤をさむ
水濁れし支考の寺の心字池
つけたての名前を呼びてお正月辻 恵美子
餅花をくぐれば大須寄席囃子
達磨市だるまのよこに猫がをり 岬 雪夫
教会のへやひとつ借り初句会
夜をかけて五体の痛む松の内 小鳥 幸男
写し絵の高祖笑まふ初景色
利かぬ氣の一片の乱す初明り 宮川 典夫
去年今年も逆流なかりけり
初風へ共感覚のツーリング 今津 大天
瞑想人生最後のチャンス初日影
初富士や新幹線の窓は額 大野 鶴士
宝船鯛の跳ねたる大漁旗
狛犬の対の力や淑気満つ 荻原 正三
人日の体重計にそつと乗り
アマビエの札ふところ冬隣 藤田真木子
小流れに夕光の福返り花

潮の香のかすかにまじり初松籟 横田 義男
初鴉濡れ羽のかくも美しく
かるき音たて初刷りのとばし読み 足立 賢治
歓声の風にちぎれて出初式
マスクして目と目で笑ふ御慶かな 渡辺 純枝
門松を据ゑて破屋のなほ古ぶ
コロナ禍に弱氣の賀状増えにけり 加藤 忠美
放たれし矢の一閃や弓始め
玄關の花生け変へて年迎ふ 小瀬千恵子
婿孫も集ひて蟹食ぶ広座卓
マスクして交す御慶や眸見て 後藤 和朗
家採りの葉もの根のもの雑煮椀
破魔矢抱き幼は父の背に眠る 寺田 好子
読初や大歳時記に先師の名
新旧の暦しばらく重ね掛け 透 乙美
小正月コンサートへと誘はれて
白障子墨磨る音の匂ひたつ 長野美代子
鯉起し岬は風の哭くところ
宇宙より発信さるる年賀かな 瀬尾 千草
連句碑に翁の名あり今朝の春
味噌樽の縮締め直す去年今年 森崎 義道
郷を守る千木の輝き淑気満つ
いまもつて父は上座に雑煮餅 小森 広司
緊張の顔ばかりなる初写真
あをによし寧楽の巻筆初硯 富田 澄江
初買の門前市の百合根かな
去年今年結願寺の大草鞋 小野木武守
なで牛の角の光や初社
初東風や八坂をぬけて知恩院 矢田 邦子
お降りや雲間に星をちりばめて

鵜供養会及び鵜供養俳句大会

令和二年十月十八日(日)午前十時より、岐阜市長良、鵜塚のある霊天庵にて「岐阜観光コンベンション協会」主催の「鵜供養会」が開催された。

当日は曇天で涼しかったが、コロナウイルス禍の影響で関係各方面の代表者や俳人の方々も例年より少なく四十名余の参列であった。

主催者側の説明によると、令和二年度の鵜飼は大河ドラマ「麒麟がくる」による集客効果も期待されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催日数が五十五日減、乗船客数が計一万五千人余と、ともにここ数十年間で最低を記録した。寿命を全うした鵜は八羽とのことであった。

法要は、僧の読経に続いて鵜匠をはじめ関係者の焼香があり、俳人協



長良川河畔・鵜の供養

会岐阜県支部からは荻原正三副支部長が代表して焼香した。

次に場所を長良川河畔に移し、「鵜供養短冊流し」が行われた。

河畔には鵜舟が一艘用意され、鵜簞が焚かれた。導師と六名の鵜匠が舟に乗り込み、しめやかに法要が行われた。読経が流れる中、あらかじめ各人に配られていた水溶性の短冊に俳句を書き長良川に流し、鵜供養会は終了した。

午後一時より「うかいミュージアム」の四阿にて俳人協会岐阜県支部後援の「鵜供養俳句会」が開催された。出席者は十四名で、各人三句投句であった。受賞者等は次のとおりである。

俳人協会岐阜県支部賞

流れゆく水も過客や鵜の供養

篠田 游

秀逸賞

新薬の匂ひを纏ふ式部職

岩上 利一

天に城屋の大河へ鵜短冊

能登 実

人の世に尽くして今日の鵜の供養

佐橋 裕子

俳人協会岐阜県支部副支部長

荻原 正三 詠

川風のとどく鵜塚へ小鳥来る

貝寄風主宰

宮川 典夫 詠

鵜供養を修す鵜塚は翳深め

(奥田 宇滴記)

第二十回「芭蕉の道俳句大会」募集案内

俳人協会岐阜県支部では、岐阜市における芭蕉の足跡を偲び、令和三年も次のように俳句大会を計画いたしました。今回は、俳人協会幹事・加藤かな文先生をお迎えし、親しく講演していただきます。会員にとって絶好の機会ですので是非ご参加いただきたく、また会員以外の方も誘いください。よろしくご案内いたします。

期日 令和三年五月十五日(土) 午後一時 開会
会場 じゅうろくプラザ・(一階)ホール(JR岐阜駅前)

講演 俳人協会幹事・加藤かな文 先生
岐阜市橋本町一の十の十一 ☎0581-2621-150

受付 俳句大会を計画いたしました。今回は、俳人協会幹事・加藤かな文先生をお迎えし、親しく講演していただきます。会員にとって絶好の機会ですので是非ご参加いただきたく、また会員以外の方も誘いください。よろしくご案内いたします。

開場 十時より十一時三十分まで(投句受付も同じ)
十時 昼食の用意はありません。各自お済ませください。

投句 事前投句 雑詠(冬季・新年及び春季に限る)
事前投句券を必要枚数購入し、貼付して投句してください。左記「申込」参照。

受付期間 一月二十日より三月十日までです。(当日消印有効)
当日投句(当日句には兼題があります。(①句 ②点)のうち、少なくとも一つを使用し、夏季の句とする。①の場合は、傍題も使用可。②の場合は、「点」の字を使うこと。)

参加者 加藤かな文先生、岐阜県支部選者グループ
当日大会参加一〇〇〇円(大会参加券を貼付してお申込みください)

申込 応募用紙に、事前投句券と大会参加券を貼付してお申込みください。
事前投句券(二句一組分・一枚一〇〇〇円)と大会参加券(一〇〇〇円)は、各結社の「大会実行委員」よりご購入ください。(欠席の場合の返金はいたしません)

投句上の留意 近くに実行委員がいない場合は、事務局にお尋ねください。
投句は自作の未発表作品に限ります。類句、類想句、模倣句、二重投句、他人の添削を受けた句は賞を取り消します。賞が取り消された場合、氏名が公表されることがあります。

俳句にルビは振らないでください。作品の著作権は作者に属しますが、大会入選句集や支部会報及び俳人協会俳句文学館への掲載には同意したものとみなします。

問い合わせ (午後九時以降の電話でのお問い合わせはご遠慮ください)
郵便の場合は、返信用葉書を同封してください。

〒五〇七-〇〇三三 多治見市小田町一の八 荻原正三
電話 〇九〇-四八六五-一六三二(メール) szogwr-18@gmail.plata.or.jp



正月の句は難しい。難しいから貴重である。正月の句がなぜ難しいかといえばまず季語が少ない。僅か一か月間の、冬季と併存する季語である。しかも時代に合わない季語が多く、行事などはほとんど馴染みがなく詠めないのである。次の季語にもめでたいという観念が付き纏い型通りの句になりがちである。そしてもう一つ、晴れと曇りの区別が薄れつつある現代に於て以前のような正月の実感が乏しくなってきた。それは年齢を重ねたこともあるかも知れないが。

以上のようなことから私にとって正月の句は作りにくくなっている。では吾が師細見綾子はどのような季語を詠んでいたのだろうか。

綾子は明治生まれで、作句は昭和五年頃から平成七年頃まで続いたが、最充実期は昭和四十年代五十年代である。当時は今よりもずっと正月らしさやその実感があったといっただけであろう。そんな時代の綾子が詠んでいた季語は、最も多かったのが正月、次がまゆ玉、そして新年、とんだ、



辻 恵美子顧問

七草粥、初日、餅花、去年今年、松の内、買初、初夢、初乗り、初句会、初詣、御慶、といった具合であった。が、驚いたことにそれらはほとんど今私が詠む季語ばかりであったのだ。他に古い季語である藪入り、囲炉裏開く、山初め、手毬、蓬菜などもあったが、それらは手毬、蓬菜を除いて回想の句であり当時目にしたものでなかった。手毬は季語として用いてはいなかった。蓬菜は武蔵野の自宅に、古いものを残したいと飾っていたものである。

綾子にとってそれ以外の季語は興味が湧かなかったか身近ではなかったということだ。詠む季語がやはり多くはなかったと言わざるを得ない。

しかし、藪入り、囲炉裏開く、山初め、蓬菜などは私にとっては経験外で回想以前のこと、その辺に多少の違いがあるといえはある。

私の周りから既に消えた季語、今消えようとする季語は数多く、正月の句はいよいよ狭められていく。



私の所属している俳句結社「貝寄風」は、昭和二十二年十一月に、近藤一鴻（主宰）が創立したもので、現在は宮川典夫先生が主宰である。

毎月の句会、私の勤務している中央法規出版株式会社岐阜事務所で行っている。支部の名称は、「かはら俳句会」という。会社が長良川の川原の近くにあることから、会社創業者故庄村踏青（正人）氏が名付けられた。句会のメンバーは、社員やOBが中心で、転勤や退職もある為入れ替わっているが、数十年の会員もおられる。入社一年の

方も入会される等新鮮味もある会である。現在は、月一回宮川主宰に句会に来て頂きご指導を受けている。以前は、主宰であられた故近藤一鴻先生、故岩井三青先生、故島田秋芽先生に来て頂き、ご指導を受けていた。

私の俳句との出会いは、前職を定年退職後中央法規出版株式会社にお世話になったことにある。入社した方、転勤で配属になった方には、必ず「句会に一度オブザーバーとして出席しませんか」と勧誘の声がかかるのである。殆どの社員、私もそうであったが、俳句の経験は無い。誘われるまま、就業時間の終わった五時半から行われる句会に参加したのが切っ掛けとなり、それから続けているメンバーである。最初から選句の評を発表する機会を設けられていて、難しい漢字も多く、難儀をしたものである。しかし、回を重ねるうちに、漢字も読めるようになり、歳時記を片手に俳句を作る事も出来るようになっていった。

当句会は、このように経験の長い方から浅い方、年配の方から若い方までおられることから、思わぬ発想が聞け、刺激を受けることも多い。

私は、これからも貝寄風創立者一鴻先生の言う「郷土に根づいた句」を目指していきたいと思っている。宮川主宰からは、「俳句は韻文である。詩である。俳句は自分の感動を十七文字に託す。俳句は報告ではない。散文ではない。」と、ご指導を受けている。



森崎義道理事

県内結社近況

平成三年二月一日、俳誌『飛驒』創刊号が生まれた。小鳥幸男代表のもと飛驒全域から集まった会員は二六六名、一月十三日に開かれた創立俳句会の盛況は、慣れないスタッフの戸惑いと共に忘れられない。

三〇年の歳月の流れは徐々に会員の老化を招き、今、創刊当時から会員は少数となったが、幸い新入会員もあって会は維持できている。

飛驒で最初の句集『位山集』を編集発刊した森江鶴以来三〇〇余年、連綿と伝えられた飛驒俳壇

を実感した。本年（二〇二〇年）の第二回飛驒俳句大会は、新型コロナウイルスの影響で、紙上俳句大会として開催した。

前年同様の応募者数があり、高校生、中学生の参加は、飛驒俳句界の未来への光とも思えた。第二回飛驒俳句大会の上位入賞者は次の通りである。

天位 新米に問うて決めたる水加減

高山市 坂井 令

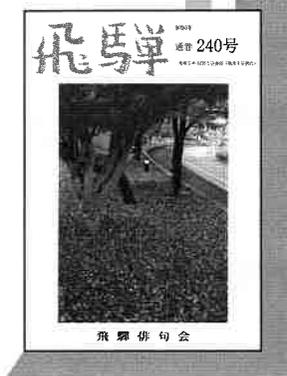
地位 万緑を来て雲水の眼の碧き

下呂市 遠藤 典子

飛驒 飛驒俳句会の三十年

『飛驒』編集長

伊藤浩子



地位 一歳と九十歳と冷奴

高山市 田口 葉子

高校生部

天位 深呼吸して弓引き分ける新樹

斐太 門前 凜音

中学生部

奨励 初夏の空雲に名前をつけてみる

中山 谷口真梨菜

最近の飛驒俳句会の活動は設立以来の月例俳句会・隔月ではあるが俳誌『飛驒』の発刊・近郊の吟行会の催行、昨年より始めた「飛驒俳句大会」などがある。

第一回飛驒俳句大会は、二〇一九年八月二十日、高山市民文化会館にて開催した。飛驒地域の俳句会と高等学校に応募用はがきを印刷したりフレットを送り、句を募集した。当日、北は神岡町、南は金山町から参加者があり、開催続行への手応え

飛驒俳句会同人の最近句抄

- 追羽子の行く方光の渦の中 小鳥 幸男
- 落鮎や月のやせゆく岩襖 平野 規子
- 水屋より洩るる小声や菊日和 澤木 正子
- 蟾螂の天衣ひろげて枯れにけり 下垣内町子
- 星月夜硯の海の薄あかり 垣内 静子
- 木犀や雨戸一枚あけておく 高木みつ江
- 椎茸のまだ干し足らぬ一葉忌 佐藤満知子
- 蟻地獄の話出でたるお斎かな 垂井 霜葉
- 赤んぼの眠り覗きぬ白障子 数崎 清子
- 小春日や序での多き妻の用 小森 丈仙
- 泣きじやくりいつ寝入りしか十三夜 栗田美由紀
- 今朝引きし牛蒡を斎の笹搔きに 川原アヤ子
- お隣の萩こぼれたる夕明り 斎藤真砂子
- 極楽は退屈でせう年暮るる 伊藤 浩子

編集後記

◆新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

◆新型コロナウイルスの先行きは未だ不透明ですが、支部主催の「第二十回芭蕉の道俳句大会」は、令和三年五月十五日（土）じゅうろくプラザ・ホールにて例年通り実施の方向で進められております。なお、今回は本部からの講師として加藤かな文先生（俳人協会幹事）をお迎えする予定です。コロナ感染拡大の収束を願うと同時に本年も会員の皆様方の一層のご健吟をお祈り申し上げます。（藤田・小野木・船戸・横田）